

横浜市緑区寺家町の直翅目

西 村 正 賢

Notes on Orthoptera in Jike-cho, Midori-ku, Yokohama

Masatoshi NISHIMURA

はじめに

直翅目は昔から人とのかわりが強く、親しまれて来た昆虫のひとつである。とくにスズムシ・マツムシ・キリギリスなどの鳴く虫は今でもよく飼育され、音色を楽しむ人も多いようである。またイナゴなどのように農業害虫として知名度が高いものも含まれている。そのように一般的なものであるにもかかわらず、それらのほとんどは風物などとしてとらえられているにすぎず、実際に神奈川県内の例をみても直翅目に関する報告の数は少なく、近年全県的にまとめられたものとして佐藤勝信(1980)、西村正賢(1986)があるにすぎない。同好者の間でも直翅目は蝶やカミキリムシなどの仲間と比べていまひとつ人気がなく調査を遅らせている。

本報告では、約1年という短い期間ではあるが直翅目に関する記録のほとんどない横浜市北西部の調査をする機会に恵まれ、わずかながら直翅目の記録をとることができた。当地域の直翅目相を語るにはさらに調査を続け記録の集積が必要と考えられるが、記録の少ない地域であるということから概観に触れ、分布基礎資料のひとつとして報告しておきたい。

本調査にあたり日頃から御指導いただき、また調査の機会を与えてくださった神奈川県立博物館学芸員の高桑正敏氏、クツワムシなどに関して近年の生息状況を御教示くださった伊藤正宏氏、一部の種について同定の労をとられた石川均氏に深くお礼申し上げる。

調査方法

現地調査では基礎資料収集の目的から採集による調査を行った。具体的には環境をおおまかに樹林・草地・裸地と分け、それぞれの環境において目視による実個体の確認を行い採集していくという方法をとった。ま

た目視による確認だけでは、調査時間帯がほとんど昼間であったことから、夜間活動性の種を多く含む直翅目の調査には不都合な点が多いため、生息の可能性のある地域においてビーティング・スウィーピングなどの積極的な方法も取り入れて調査を実施した。また生息の確認記録は基本的には実個体にもとづくものであるが、鳴き声により識別が可能な種については記録に加えた。

調査地域とその概要

調査地域は神奈川県横浜市緑区寺家町の全域を対象とした。緑区は横浜市の北西に位置し、旭区などとならんで自然環境は豊なところである。既に同市南東部ではほとんどみられなくなったコナラ・クヌギなどを主体とした雑木林が丘陵を覆い、その間の谷底部には休耕後かなり時間がたち貴重な植物も生育するという湿性草地を残している。またそれらに隣接する形で宅地化がすすんだ、造成後の荒れ地は乾性の草地・裸地を作り出している。これら多様な環境は直翅目をはじめとする多くの昆虫類の生息が期待される地域である。

調査期日

調査の期間は1985年の秋季から1986年の秋季までのおよそ1年間とした。現地での調査は多くの直翅目の成虫がみられる夏季から秋季に主に行った。実際の調査期日は1985年では10月26日、10月27日、1986年では7月19日、7月24日、9月13日、10月18日である。

調査結果

前項で挙げたように合計6回の現地調査から生息が確認されたのは7科41種であった。さらにそれらの科毎の種数をしめすならばキリギリス科13種、コオロギ

科14種、ケラ科1種、ヒシバツ科4種、バツ科5種、オンバツ科1種、イナゴ科3種である。

これらの結果をもとに県全体との比較、あるいは種の評価をするには先にも述べたように本県を含む関東地方での調査が不十分であり、比較資料が少ないことから差し控えたい。従って、ここでは筆者の持つ近隣地域の資料をもとに、調査地域で今後発見される可能性のある種についても、科毎にまとめて触れておく程度としたい。

なお、確認種については目録に示したが、そのなかでとくにことわりのないものはすべて筆者の採集したものである。

キリギリス科はコオロギ科について多くの種(13種)が確認された。今後生息確認が期待されるものとしてクツワムシ、カヤキリ、シブイロカヤキリモドキ、キリギリスなどが考えられる。これらのうちクツワムシを除くと、造成跡地のススキ草地などにもみられるもので、特に自然度の高い草地にかぎり生息するわけではないようだ。それに比べクツワムシは人手の入らない雑木林などに生息し、1960年代前半には横浜市南部でも時折鳴き声を耳にすることはあったが、同地域では近年筆者はその鳴き声を聞いたことがない。伊藤正宏氏の御教示によれば県中央部～西部には現在でもかなり生息しているという。ウマオイムシについてはすべて昼間の確認であったことから種を鳴き声により決定することはできなかった。単に環境から考えるとハヤシノウマオイ、ハタケノウマオイの両種が生息している可能性は高い。

コオロギ科に属する種はいくつかのものを除くと意外に採集がしづらいもので、草間で鳴き声はするが実個体を確認できないものがある。当地でも同様に、谷奥の草丈の高い湿性の草地で何種かの異なる鳴き声を耳にしているが個体の確認にはいたっていない。それらの種を含み生息の可能性のあるものとしてはクマスズムシ、マツムシ、スズムシ、カンタン、キンヒバリなどが挙げられる。筆者の数少ない採集経験からするとクマスズムシは耕作地脇の草地で、マツムシ、スズムシはやや草丈の高いススキ草地で、カンタンは林縁の大きなススキの株などで得られることが多い。キンヒバリは草丈の高い湿性草地でそれらしい鳴き声を耳にしたのでここに挙げた。

バツ科では今後発見される可能性の高いものとしてはショウリョウバツモドキ、トノサマバツ、ナキイナゴなどが挙げられる。ショウリョウバツモド

キは高茎の草地にみられるが局所的で、ひとつの連続した草地であっても全域にいない場合が多い。トノサマバツ、ナキイナゴは裸地～低茎草地に生息している。とくにトノサマバツは踏圧の進んだ裸地などにみられる。

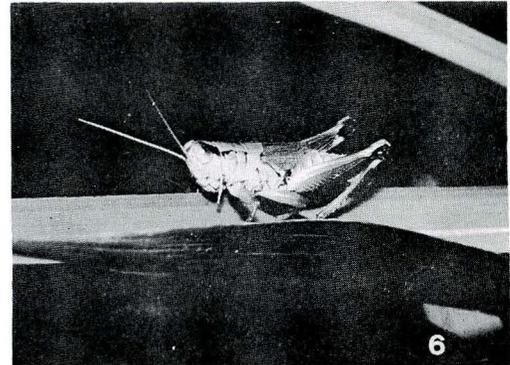
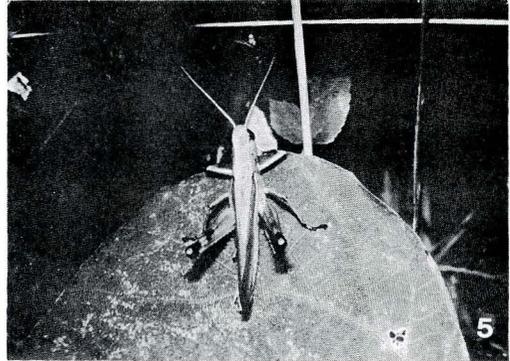
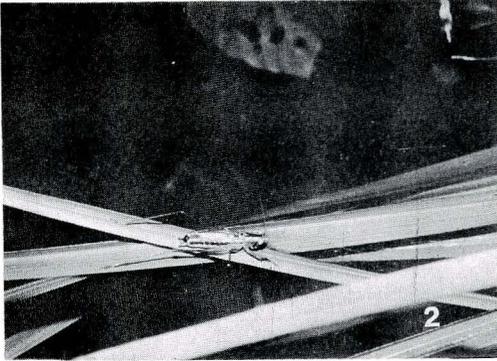
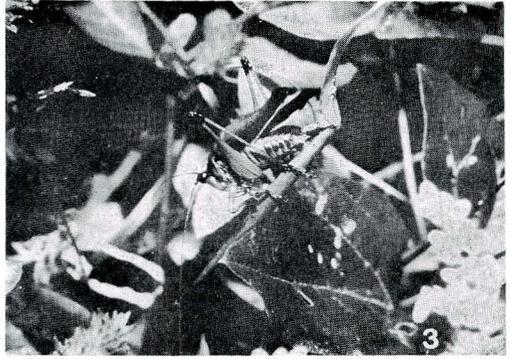
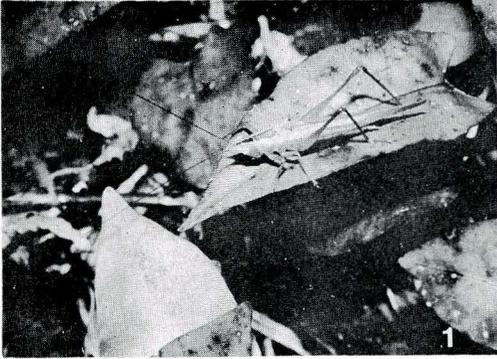
以上の科のほかにはノミバツ科のノミバツが発見される可能性がきわめて高い。本種は踏圧の比較的すすんだやや湿性の裸地などにみられるもので、住宅地などでもみられる。本調査では谷間の裸地などに注意したが確認できなかった。

直翅目目録

学名は直翅類研究グループ(1983)によった。

キリギリス科 Tettigoniidae

- ・ツユムシ *Phaneroptera falcata*
2♂♂, 19. VII. 1986.
- ・セスジツユムシ *Ducetia japonica*
1♀, 13. IX. 1986.
- ・サトクダマキモドキ *Holochlora japonica*
2♂♂, ♀♀, 13. IX. 1986.
- ・ウマオイの一種 *Hexacentrus* sp.
2♂♂, 2♀♀, 13. IX. 1986; 1♂, 13. 1986 (高桑).
- ・クビキリギリス *Euconocephalus thunbergii*
1 ex., 13. IX. 1986.
- ・クサキリ *Homorocoryphus lineosus*
2♀♀, 27. X. 1985.
- ・オナガササキリ *Conocephalus gladiatus*
1♀, 18. X. 1986.
- ・ウスイロササキリ *Conocephalus chinensis* (写真1)
6♂♂, 4♀♀, 27. X. 1985; 5. ♂♂, 24. VII, 1986; 2♂♂, 18. X. 1986.
- ・コバネササキリ *Conocephalus japonicus* (写真2)
7♂♂, 27. X. 1985; 5♂♂, 4♀♀, 18. X. 1986.
- ・ササキリ *Conocephalus melas* (写真3)
5♀♀, 27. X. 1985; 1♀, 13. IX. 1986; 2♂♂, 18. X. 1986.
- ・コバネヒメギス *Chizuella bonneti*
2♂♂, 2♀♀, 13. IX. 1986.
- ・ヒメギス *Metrioptera hime*
15♂♂, 3♀♀, 19. VII. 1986.
- ・ヤブキリ *Tettigonia orientalis*
1♂, 2♀♀, 24. VIII, 1986.



- 写真1 ウスイロササキリ *Conocephalus chinensis*
2 コバネササキリ *Conocephalus japonicus*
3 ササキリ *Conocephalus melas*
4 アオマツムシ *Calyptotrypus hibinonis*
5 ツマグロイナゴモドキ *Mecostethus magister*
6 フキバッタの1種 *Parapodisma* sp.

コオロギ科 Cryllidae

- ツツレサセコオロギ *Velarifictorus micado*
2♂♂, 2♀♀, 13. IX. 1986.
- グマコオロギ *Modicogryllus? minor*
1♀, 13. IX. 1986 (高桑).
- ハラオカメコオロギ *Loxoblemmus* sp. 1
2♂♂, 2♀♀, 13. IX. 1986.
- モリオカメコオロギ *Loxoblemmus* sp. 2
1♂, 13. IX. 1986.
- ミツカドコオロギ *Loxoblemmus* sp. 3
1♂, 1♀, 26. X. 1985; 1♂, 13. IX. 1986.
- エンマコオロギ *Teleogryllus emma*
2♀♀, 26. X. 1985; 2♂♂, 2♀♀, 13. IX. 1986.
- アオマツムシ *Calyptotrypus hibinonis* (写真4)
1♀, 27. X. 1985.
- キアシヒバリモドキ *Trigonidium* sp.
2♀♀, 24. VII. 1986.
- クサヒバリ *Paratrigonidium bifasciatum*
1♂, 2♀♀, 18. X. 1986.
- ヤチスズ *Pteronemobius ohmachi*
2♀♀, 24. VII. 1986.
- マダラスズ *Pteronemobius nigrofasciatus*
1♂, 1♀, 26. X. 1985; 2♂♂, 2♀♀, 13. IX. 1986.
- ヒゲシロスズ *Pteronemobius flavoantennalis*
2♀♀, 13. IX. 1986.
- シバズ *Pteronemobius mikado*
2♂♂, 2♀♀, 13. IX. 1986.
- カネタタキ *Ornebius kanetataki*
2♂♂, 2♀♀, 13. IX. 1986.

ケラ科 Gryllotalpidae

- ケラ *Gryllotalpa fossor*
1♂, 27. X. 1985; 1 ex. (幼虫), 19. VII. 1986.

ヒシバツタ科 Tetrigidae

- トゲヒシバツタ *Criotettix japonicus*
2 exs., 19. VII. 1986; 2♂♂, 2♀♀, 13. IX. 1986.
- ハネナガヒシバツタ *Euparatettix insularis*
22 exs., 19. VII. 1986; 2♂♂, 2♀♀, 13. IX. 1986.
- ヒシバツタ *Acrydium japonicum*
3 exs., 19. VII. 1986; 2♂♂, 2♀♀, 13. IX. 1986.

• コバネヒシバツタ *Fornosatettix larvatus*

1 ex., 19. VII. 1986; 2♂♂, 2♀♀, 13. IX. 1986.

バツタ科 Acrididae

- ショウリョウバツタ *Acrida cinerea*
2♂♂, 2♀♀, 13. IX. 1986.
 - クルマバツタモドキ *Oedaleus infernalis*
4♀♀, 13. IX. 1986.
 - イボバツタ *Trilophidia annulata japonica*
2♂♂, 2♀♀, 13. IX. 1986.
 - ツマグロイナゴモドキ *Mecostethus magister* (写真5)
5♂♂, 3♀♀, 19. VII. 1986.
 - ヒナバツタ *Chorthippus brunneus*
2♂♂, 2♀♀, 13. IX. 1986.
- オンブバツタ科 Pyrgomorphidae
- オンブバツタ *Atractomorpha lata*
• 1♂, 2♀♀, 27. X. 1985; 2♂♂, 5♀♀, 13. IX. 1986.

イナゴ科 Catantopidae

- コバネイナゴ *Oxya yezoensis*
2♂♂, 27. X. 1985; 3♂♂, 1♀, 13. IX. 1986.
- フキバツタの1種 *Parapodisma* sp. (写真6)
1♀, 24. VII. 1986; 2♀♀, 13. IX. 1986.
- ツチイナゴ *Patanga japonica*
1 (幼虫), 13. IX. 1986.

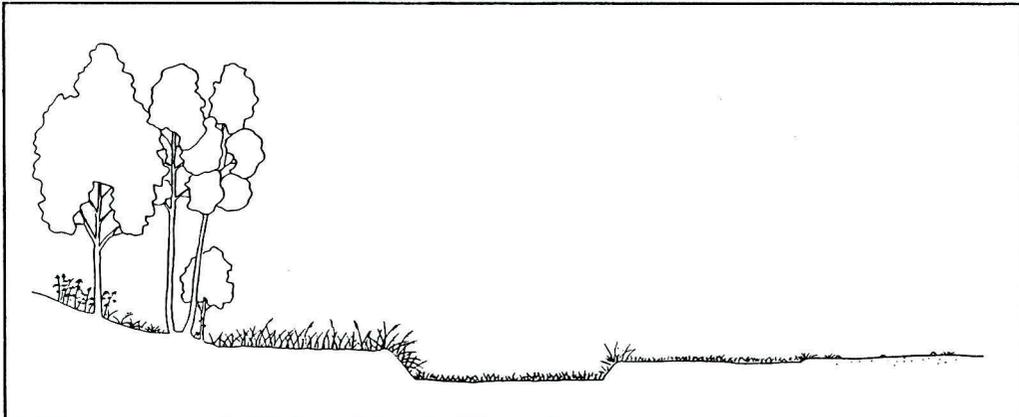
直翅類とその生息環境

直翅目の生息環境については本調査での確認地点をもとに判別を行ったもので、従来の報告とは多少異なることもある。直翅目の生息環境という点からすると調査地域の環境は樹林、草地、裸地の3つに大別された。ほかに草地として水田が占める割合も大きい。薬害などを考慮すると本来の直翅目相が確認できない可能性があり、調査対象から除いた。以下に各環境の概要とそこでみられる直翅目について記した。さらにそれらを図にまとめ示した(図1)。

① 樹林

丘陵部のほとんどがコナラ、クヌギなどを主とした樹林地である。公園化されていることから林床の整備は行き届き、部分的には低木(藪)が残されているが、多くは草木が生えている程度である。直翅類の生息には林床が放置されているほうが適するようで、管理が

図1 直翅類とその生息環境



樹 林	低 茎 草 地		高 茎 草 地	裸 地
	湿 性 草 地	乾 性 草 地		
セスジツユムシ サトクダマキモドキ ウマオイムシの一種 ササキリ ヤブキリ アオマツムシ クサヒバリ カネタタキ フキバッタの一種 オオカマキリ チョウセンカマキリ	ウスイロササキリ コバネヒメギス ヒメギス クマコオロギ キアシヒバリモドキ ヤチスズ ケラ トゲヒシバッタ ハネナガヒシバッタ ヒシバッタ コバネヒシバッタ オンブバッタ コバネイナゴ	クビキリギス クサキリ ツツレサセコオロギ ハラオカメコオロギ ミツカドコオロギ エンマコオロギ マダラスズ ヒゲシロスズ シバズ ヒシバッタ コバネヒシバッタ ショウリョウバッタ クルマバッタモドキ イボバッタ ヒナバッタ オンブバッタ コバネイナゴ ツチイナゴ コカマキリ	ツユムシ オナガササキリ コバネササキリ	ヒシバッタ コバネヒシバッタ クルマバッタモドキ イボバッタ ヒナバッタ ツチイナゴ ハラオカメコオロギ エンマコオロギ マダラスズ

されていない町田市側の樹林林縁で種数・個体数ともに多く確認できた。この環境で確認されたものとしてはキリギリス科ではセスジツユムシ・サトクダマキモドキ・ウマオイムシの一種・ササキリ・ヤブキリ、コオロギ科ではアオマツムシ・クサヒバリ・カネタタキ、イナゴ科ではフキバッタの一種である。これらのうちサトクダマキモドキ・アオマツムシは樹上にみられ、前者はコナラ、後者はサクラの樹から多く確認されている。アオマツムシは周知のように都市昆虫といって

もよいほど人為的環境に関係し、樹林地にのみ生息するものではないが、サトクダマキモドキは周辺の生息地をみても樹林との関係は密接なようである。またヤブキリも樹上で得られているが、調査地では先の2種と比べ静止位置は低かった。ほかの種はすべて林縁で確認されたもので、特定樹種との関連もみられなかった。

② 草 地

a. 高茎草地

林縁の一部、谷奥、道路脇などにみられる環境で、ほとんどが乾性草地であるが谷奥にあるものは湿性の草地であった。ただ谷奥にある草地では何種かの直翅目の鳴き声を聞いているが実個体を確認できなかったことからこの環境区分から除くことにする。前述のようなどころにある高茎の草地はススキであることが多く、そこではキリギリス科のツユムシ・オナガササキリ・コバネササキリをみることができた。このうちツユムシは各種の草本が混生するような草地にみられたが、オナガササキリ・コバネササキリはイネ科の草本が主体となった草地でよくみられた。また後者の2種は近縁で同様の環境を利用しているようであるが、調査地域内での分布(確認地点)は異なった。両種とも熊野神社奥の谷で確認されたが、オナガササキリは谷入口近くの水田の脇にあるススキの草地、コバネササキリは谷奥の湿性草地(休耕田)の脇にあるススキ草地というように多少離れた地域において生息が確認された。これら2種のササキリ類が棲み分けをしているものかどうかについては資料が少なく確認はされなかったが、コバネササキリについては採集個体のほか50個体ほど捕獲して確認したがオナガササキリは同所から発見できなかった。さらにこれらは発生期も異なり周辺地域の例ではオナガササキリは8月中旬から、コバネササキリは10月に入ってからみられた。

b. 低茎草地

この環境は谷底部と丘陵の樹林内空間などにみられた。谷底部では休耕後かなりの年月を経た湿性の草地となっている。そこではキリギリス科のウスイロササキリ・コバネヒメギス・ヒメギス、コオロギ科のクマコオロギ・キアシヒバリモドキ・ヤチスズ、ケラ科のケラ、ヒシバツタ科のトゲヒシバツタ・ハネナガヒシバツタ・ヒシバツタ・コバネヒシバツタ、オンブバツタ科のオンブバツタ、イナゴ科のコバネイナゴが多くみられた。これらのなかでヒメギス・クマコオロギ・トゲヒシバツタなどはとくに湿性地との結びつきは強いようで、水の溜まったような草地にも生息していた。また樹林内空間、小道脇の乾性の草地にはキリギリス科のグビキリギス・クサキリ、コオロギ科のツツレサセコオロギ・ハラオカメコオロギ・ミツカドコオロギ

・エンマコオロギ・マダラスズ・ヒゲシロスズ・シバズ、ヒシバツタ科のヒシバツタ・コバネヒシバツタ、バツタ科のショウリョウバツタ・クルマバツタモドキ・イボバツタ・ヒナバツタ、オンブバツタ科のオンブバツタ、イナゴ科のコバネイナゴ・ツチイナゴがみられた。

③ 裸地

調査地域では造成地・耕作地(畑など)・道路などをこの環境とした。ここではヒシバツタ科のヒシバツタ・コバネヒシバツタ、バツタ科のクルマバツタモドキ・イボバツタ・ヒナバツタ、イナゴ科のツチイナゴなどがみられた。これらのなかでとくにクルマバツタモドキ・ツチイナゴは踏圧の進んだ地域にみられた。またこれらの環境に草本や落葉がわずかでもみられるとハラオカメ・エンマ・マダラスズなどといったコオロギ類も確認できた。

文 献

- 直翅類研究グループ 1983 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第15集. 日本の直翅類. 大阪市立自然史博物館.
- 小林正明 1981 信州の秋に鳴く虫とそのなかま. 秋の虫の会.
- 小林正明 1985 日本の秋の虫. 築地書館株式会社. 東京.
- 松浦一郎 1983 直翅類の採集法. 昆虫と自然, 18(7): 17-19.
- 西村正賢 1986 神奈川県直翅類概要. 神奈川虫報, (79): 1-4.
- 大阪市立自然史博物館 1978 大阪市立自然史博物館展示解説 第4集. 大阪の昆虫 陸生篇 I.
- 佐藤勝信 1981 神奈川県のコオロギ, バツタ, カマキリ類その他について. 神奈川県昆虫調査報告書: 227-231.
- 山崎柄根 1978 学研の写真図鑑バツタ. 学習研究社. 東京.
- 横浜市公害対策局 1983 横浜市昆虫調査報告書.

(神奈川昆虫談話会)